

デジタルを用いた患者さん向け 情報提供に関するアンケート結果

2023年10月10日

日本製薬工業協会(製薬協)

医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会

TF1(Dxを活用したリスクコミュニケーション)



内容

1. Executive Summary
2. アンケート概要
3. アンケート結果
4. 考察
5. 参考資料

1. Executive Summary：デジタルによる患者さんへの情報提供

- **患者さん向け情報のデジタル化**は一部で進んでいるが、**PV部門の関与の余地**はまだ残されている。
- デジタルツールを用いて提供できる資材を見直す、医薬品リスク管理計画(RMP)資材等の適正使用推進にデジタルツールの活用を検討するなど、**より患者さんに届く経路の検討/確立が望まれる。**

現状

- ✓ 紙とデジタルのハイブリッドがいずれか単独よりも多いが、紙/デジタルの使い分けはされていない。
- ✓ 動画コンテンツやアプリの作成が進む一方、作成時に**PV部門が関与している割合は21.0～23.0%**であった。
- ✓ PV部門は**医療関係者を介した提供を希望する割合が高い。**

期待される方向性

- ✓ 患者さんの処方薬の医療関係者以外の情報源はインターネットが圧倒的多数。高齢者もインターネット利用率は6割を超えており、**デジタルを介した情報提供の可能性を更に検討**する必要がある。
- ✓ **調剤薬局からの服薬指導として、PUSH型コミュニケーションが可能なデジタルツール(LINEやSMS等)の普及**が始まっている。デジタルによる新たなソリューションの活用を検討と、新たな適正使用推進の手法として**PV部門からの関与も期待**される。

1. Executive Summary：患者さんや医療関係者からの意見聴取

- 医療関係者からのフィードバックに比べ、患者さんからのフィードバックを得ている企業は少ない。
- 患者さんからの意見聴取の必要性は理解されている一方、実現困難と考える企業も一定数認められた。
- デジタルツールの活用など、効果的・効率的に意見聴取できる業界での情報共有や仕組み作りが求められる。

現状

- ✓ 患者さん向けデジタルコンテンツについて、**83.6%の企業で患者さんからのフィードバックが未取得**であった。
- ✓ 監修医の設定や意見聴取はよく行われている。
- ✓ 患者さんからの意見聴取の必要性は**90%超の企業で認識**されている一方、コストやリソース面で**実現困難との意見の企業は40%超**であった。

期待される方向性

- ✓ デジタルツールの活用により、患者さんからの意見を聞きやすくなる可能性がある。
- ✓ **RMP資材未活用の理由として、資材内容のわかりにくさが挙げられていたことから、より効果的・効率的な意見聴取の方法を業界として検討**することで、各種資材の更なる活用が期待される。

1. Executive Summary：患者さん向け資材のプラットフォーム※への掲載

- プラットフォームを通じた情報提供が必要とされており、最適なプラットフォームの整理及び患者さんへの認知度向上が求められる。
- プラットフォームへの掲載資材及びデジタル媒体に応じた情報掲載の構造化についても整理が必要である。
- 患者さんはインターネット検索時、「決まった情報やサイトはない」「検索表示上位をみる」傾向があり¹⁾、正しい情報にたどり着けるよう、正確な情報を集めたプラットフォームが望まれる。

※プラットフォーム：情報を集めて保存する、情報を取り出して利用するための共通基盤

現状

- ✓ プラットフォームを通じた情報提供の必要性は90%超の企業で認識され、効率的な仕組みのプラットフォームが望まれている。
- ✓ プラットフォーム経由で患者さんからのアクセスが可能とすべき主なコンテンツは「患者向医薬品ガイド」「くすりのしおり」「患者さん向けRMP資材」「疾患啓発(非RMP資材)」であった。

期待される方向性

- ✓ 患者さんに広く認知されているプラットフォームはなく、検索上位の情報にアクセスされている状況がみられることから、正確な情報を集め、かつ患者さんに広く認知されるプラットフォームが望まれる。

2. アンケート概要

目的	デジタルを用いた患者さんに対する安全性を含む情報提供について、各企業の運用や課題認識の調査を通じて現状の課題を整理し、より適切な安全性を含む情報提供に向けた提言や情報発信のために活用する
背景	患者さんの医師・薬剤師以外からの主な情報源は「インターネット(ウェブサイト)」(53.8%と圧倒的多数)であり、インターネットでの情報入手先として、製薬企業に次いで民間の情報サイトがある ²⁾ また、医療用医薬品の検索時、64.8%は「決まった情報やサイトはない」、うち22.0%は「検索表示上位を見る」と回答 ¹⁾
実施対象	74社(製薬協PV部会加盟会社、PV部会委員宛)
実施期間	2023年1月18日(水)～2月10日(金)
回答数、回答率	55社、74%
アンケート内容	以下の項目についてアンケートを実施 ① デジタルによる患者さんへの情報提供について ② 患者さんや医療関係者からの意見について ③ 患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

1) 医療用医薬品の調べ方調査、くすりの適正使用協議会 2021年5月20日
[医療用医薬品の調べ方調査\(くすりの適正使用協議会\)](#)

2) 第16回くすり製薬産業に関する生活者意識調査 調査結果報告書、製薬協 2022年11月
[「くすり製薬産業に関する生活者意識調査」報告書 | 刊行物 | 日本製薬工業協会 \(jpma.or.jp\)](#)

2. アンケート概要

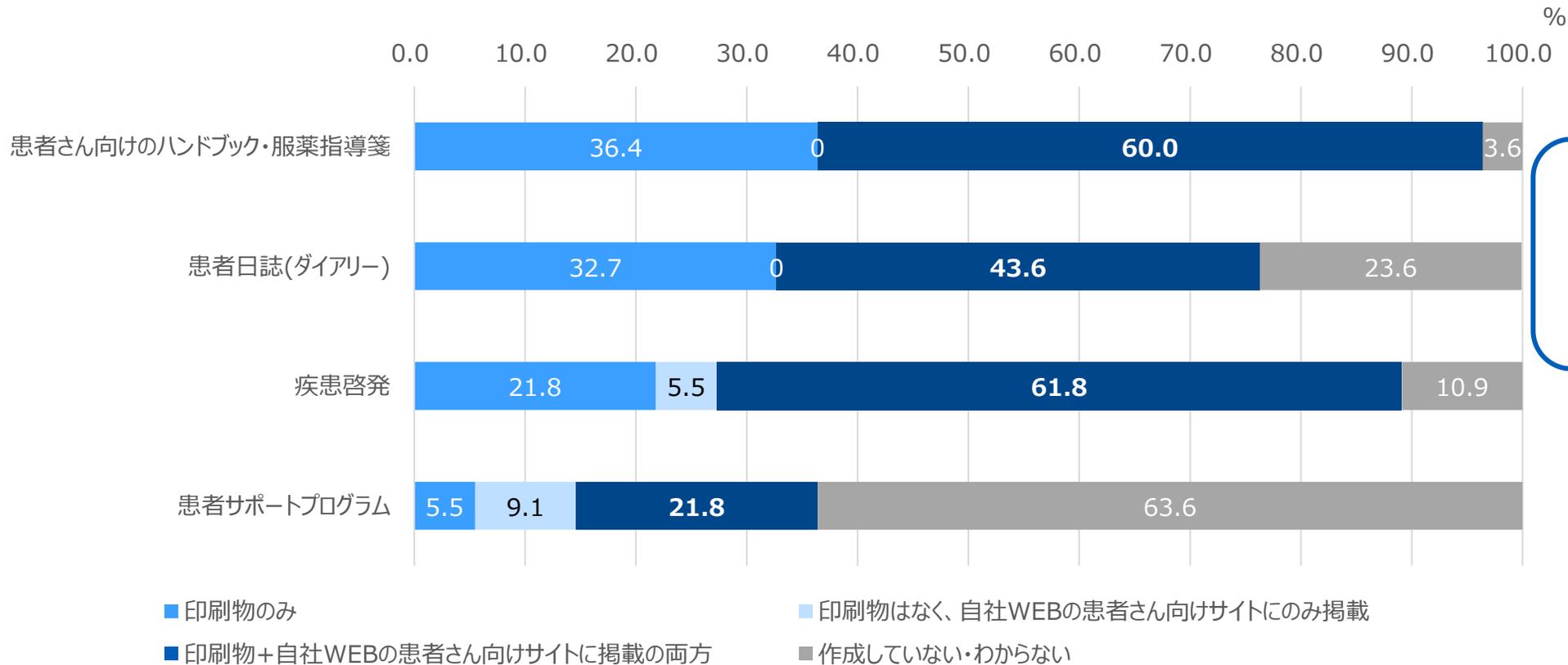
本アンケートにおける資材(情報)の種類と定義は以下のとおり

種類	定義
患者さん向けのハンドブック・服薬指導箋	薬の用量・用法、飲み忘れた際の注意、飲み合わせの注意、特定の副作用発現時の症状、発現時に気を付けるポイント、対応方法などを記載した資材(副作用に関連する情報のみの資材も含む)
患者日誌(ダイアリー)	日常(定期的に)計測する数値(血圧、血糖値、体温など)や症状、日々の気づきを記録する資材
疾患啓発	疾患全般の説明、疾患と薬の関係などを記載した資材(情報)
患者サポートプログラム	患者さんへの多岐にわたる情報提供によるサポート(自己管理の支援、服薬リマインド、患者の質問などへの対応、等)

3. アンケート結果 (1/12)

① デジタルによる患者さんへの情報提供について

- 患者さん向けの情報提供は、ハイブリッド(印刷物+WEB)が最も多く、次いで印刷物のみであった
- WEB掲載のみとなるケースは限定的(疾患啓発及び患者サポートプログラム)



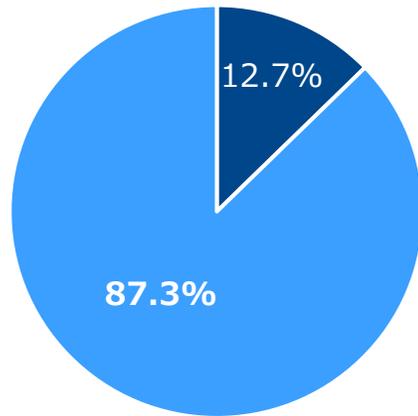
ハイブリッドによる提供 = 「印刷物のみ」あるいは「WEB掲載のみ」と比べ1.3 ~ 11.2倍多い

Q 1. 患者さん向けの情報提供について、情報提供の経路を選択してください。(※製品により異なる可能性がありますので、貴社で多いケースを選択してください。) (n=55)

3. アンケート結果 (2/12)

① デジタルによる患者さんへの情報提供について

患者さん向けの情報提供では、印刷物とデジタル版を使い分けていない企業が大部分(87.3%)



■ 使いわけている

■ 使いわけていない

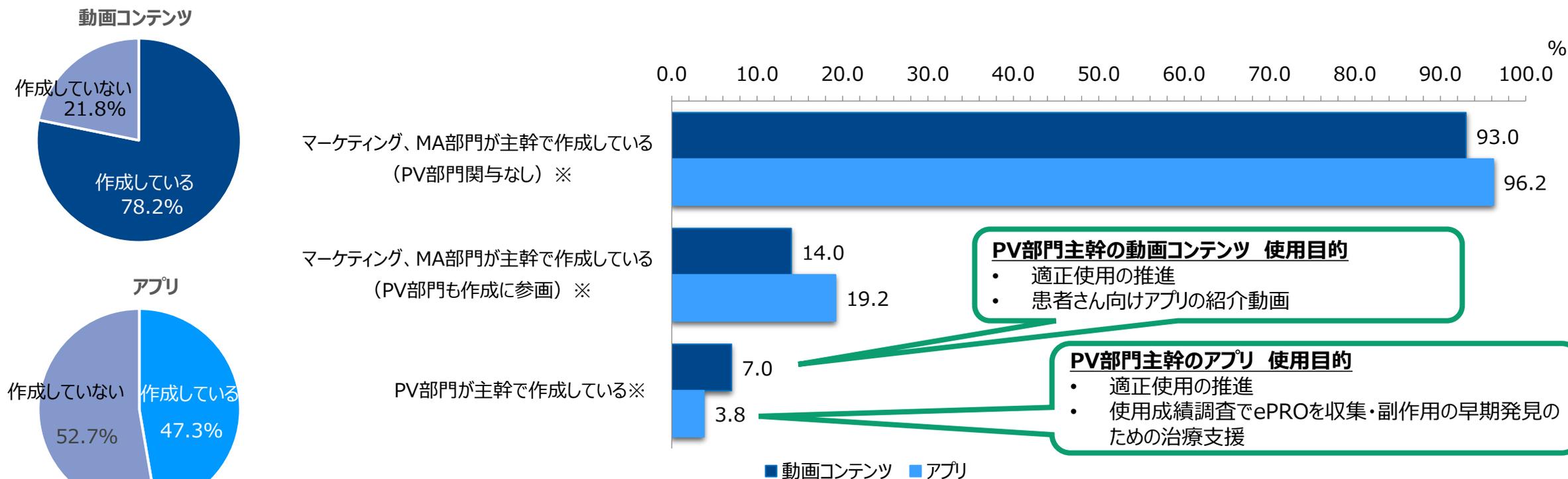
使い分けの具体例

- 治療ダイアリーとアプリは、患者さんのニーズによりどちらかを選択してもらっている
- 医療機関や患者さんが印刷することが困難なページ数の多い資材は印刷物を提供している
- 患者さんの年齢層等により、使いやすいものを利用いただいている
- 医療機関の要望に応じて
- 疾患特性等を考慮し、患者さんへの提供方法が最適となる手段を選択

3. アンケート結果 (3/12)

① デジタルによる患者さんへの情報提供について

- 患者さん向けの動画コンテンツ及びアプリ作成割合はそれぞれ78.2%、47.3%
- 患者さん向けの動画コンテンツ・アプリ作成時のPV部門からの関与事例は21.0~23.0%
(PV部門が主幹：3.8~7.0%、マーケティング/MA部門主幹にPV部門が参画：14.0~19.2%)



※ 作成していると回答した企業(動画コンテンツ：n=43、アプリ：n=26)に対する割合

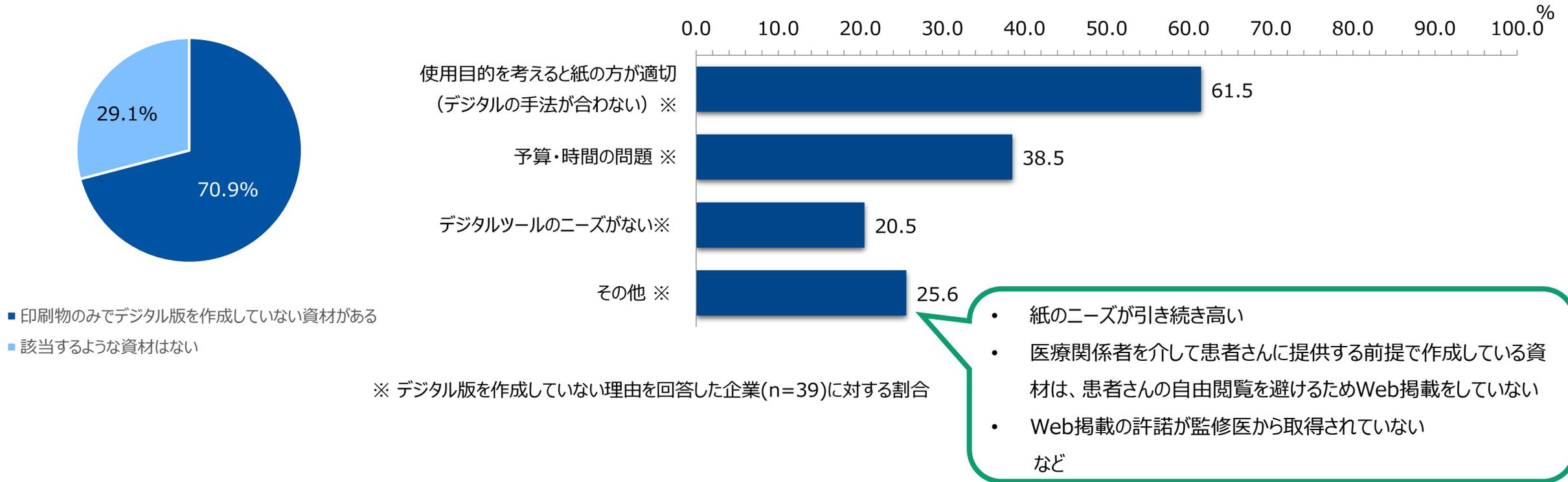
Q 2. 患者さん向けの動画コンテンツ(動画が閲覧できる媒体も含む)を作成していますか。(複数選択可)(n=55)

Q 4. 患者さん向けアプリ(デジタルブック形式の資料を含む)を作成していますか。(複数選択可)(n=55)

3. アンケート結果 (4/12)

① デジタルによる患者さんへの情報提供について

デジタル版を作成しない主な理由は、1位 使用目的を考えると紙の方が適切(61.5%)、2位 予算・時間の問題(38.5%)、3位 デジタルのニーズがない(20.5%)

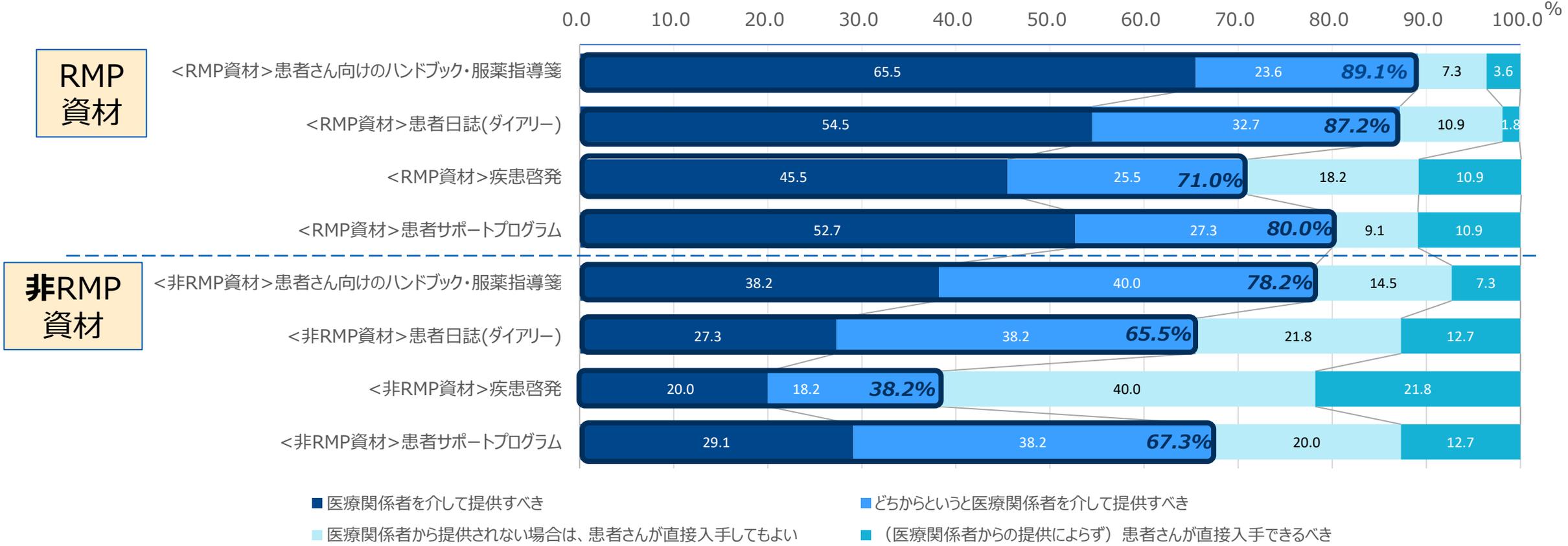


Q 8. 印刷物のみでデジタル版(Web掲載や、様々なデジタルツールを含む)を作成しない資材がある場合、具体的な理由をお聞かせください。(複数選択可) (n=55)

3. アンケート結果 (5/12)

① デジタルによる患者さんへの情報提供について

- 患者さん向け資材・情報は、医療関係者を介した提供を希望する割合が65.5%～89.1%*
*「<非RMP資材>疾患啓発」を除く
- いずれの資材・情報とも、RMP資材の方が医療関係者を介した提供を希望する割合が高い

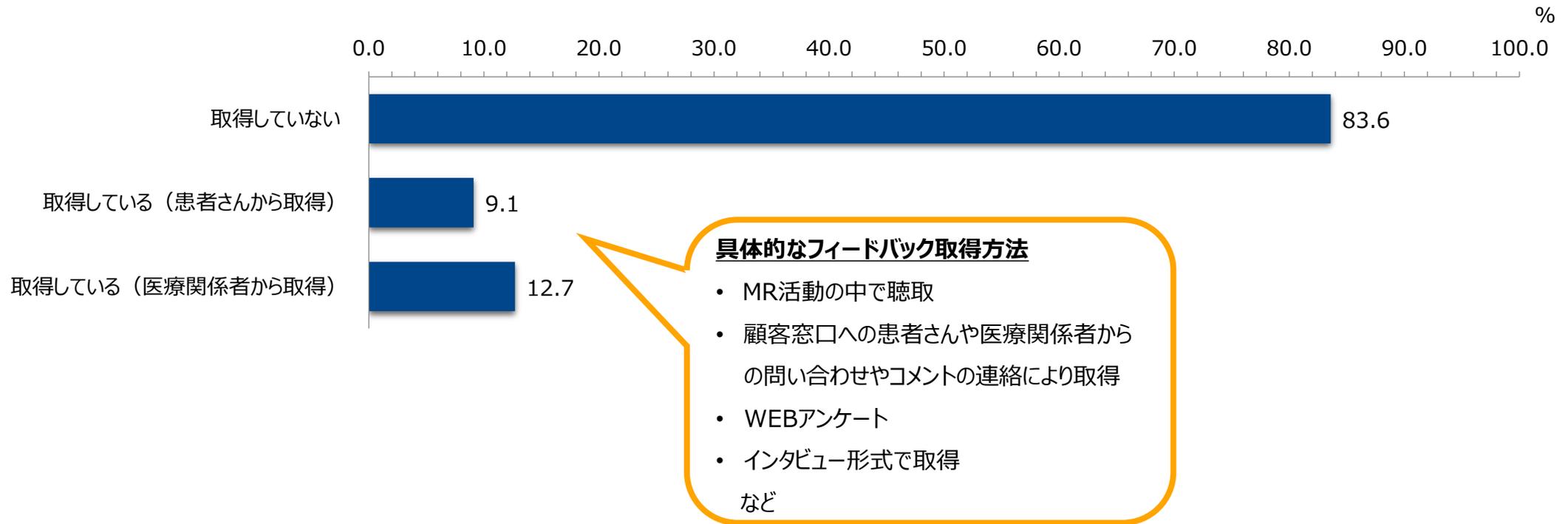


Q 9. 患者さんが資材・情報を入手する経路として、①医療関係者を介して入手する、あるいは②医療関係者を介さずに患者さん自身が直接入手する、の2種類が想定されます。以下の資材・情報に関する考え方を選択ください。(n=55)

3. アンケート結果 (6/12)

② 患者さんや医療関係者からの意見について

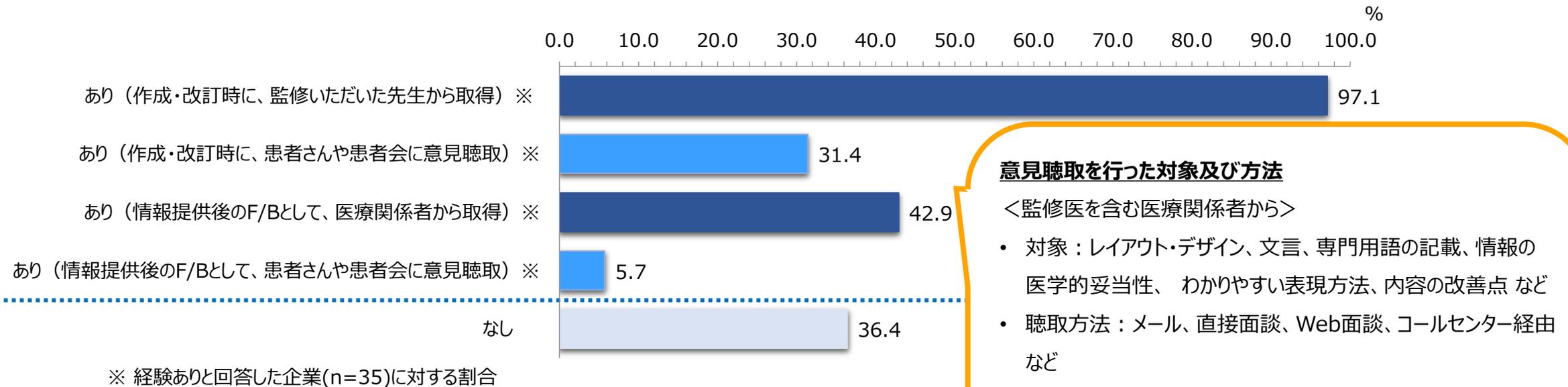
患者さん向けデジタルコンテンツについて、患者さん又は医療関係者等からフィードバックを取得していない企業が大部分(83.6%)



3. アンケート結果 (7/12)

② 患者さんや医療関係者からの意見について

- 医療関係者・患者さんからの意見聴取により資材・情報を作成・改訂した経験のある企業は63.6%（「なし」以外、35/55社）
- 医療関係者からに比べ、患者さんからの意見聴取している企業の割合は低かった



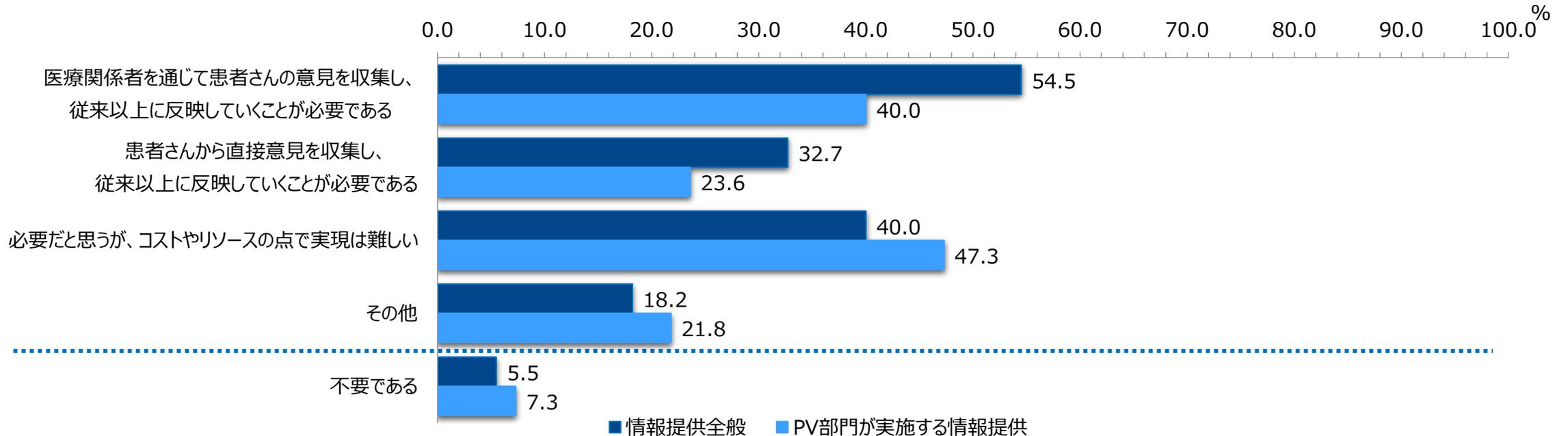
Q13. 患者さん向け資材について、監修者として、もしくは、情報提供後のフィードバック(F/B)として、**患者さんや医療関係者の意見**を取り入れて作成・改訂した経験はありますか(例：デジタル又は紙の適切性、内容、デザインなど)。
(複数選択可) (n=55)

3. アンケート結果 (8/12)

② 患者さんや医療関係者からの意見について

患者向けの情報提供(全般、PV部門が実施)について：

- 患者さんからの意見収集・反映の必要性は90%超の企業で認識
(「不要である」以外、全般：94.5%(52/55社)、PV実施：92.7%(51/55社))
- 一方、コストやリソースの点で実現困難と考える企業は40%超 (全般：40.0%、PV実施：47.3%)



Q15. 今後、貴社が実施する患者さん向けの情報提供全般(デジタル、印刷物いずれも含む)について、患者さんの意見を取り入れる必要はあると思いますか。もし、デジタル、印刷物で必要性に差がある場合は「その他」に記載してください。(複数選択可) (n=55)

Q16. 今後、**貴社のPV部門が実施する患者さん向けの情報提供**(デジタル、印刷物いずれも含む)について、患者さんの意見を取り入れる必要はあると思いますか。もし、デジタル、印刷物で必要性に差がある場合は「その他」に記載してください。(複数選択可) (n=55)

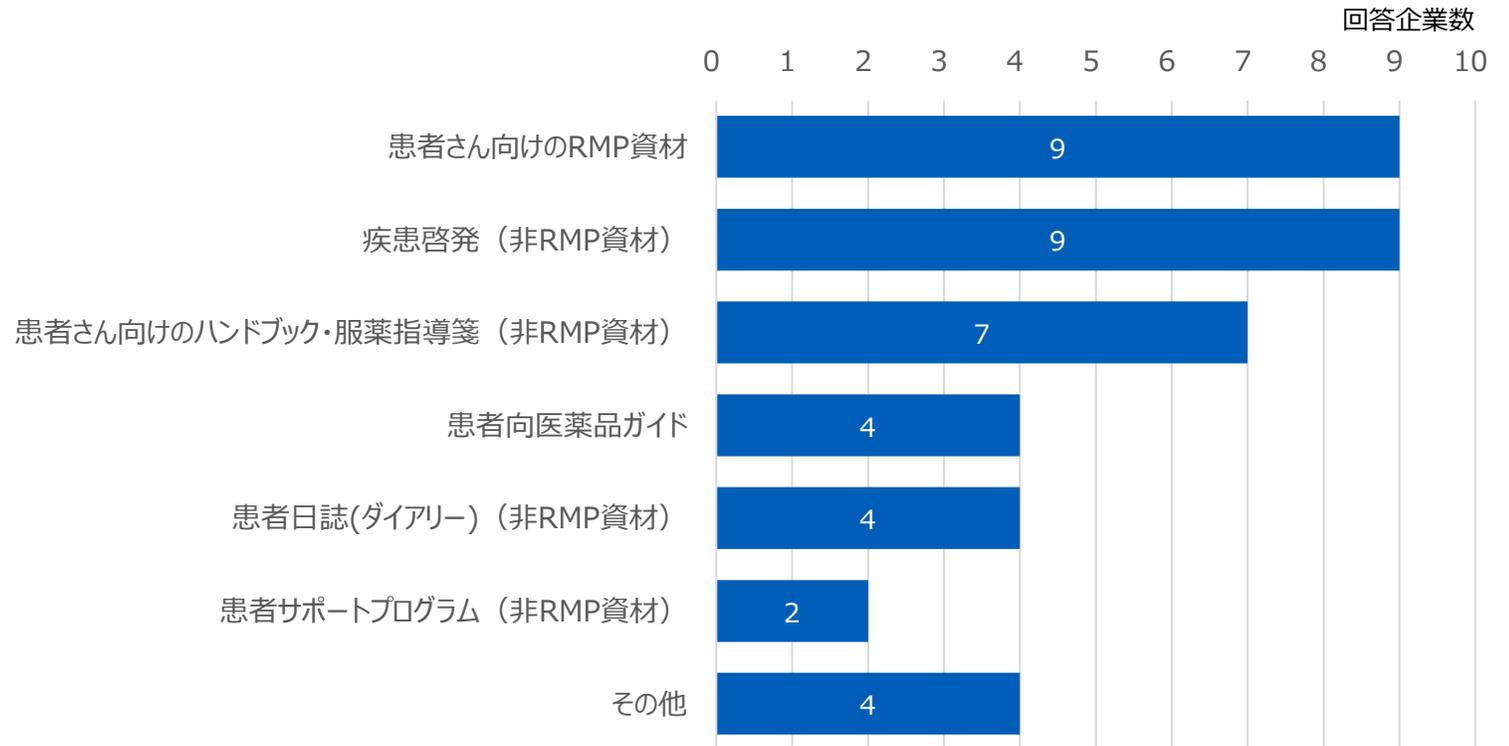
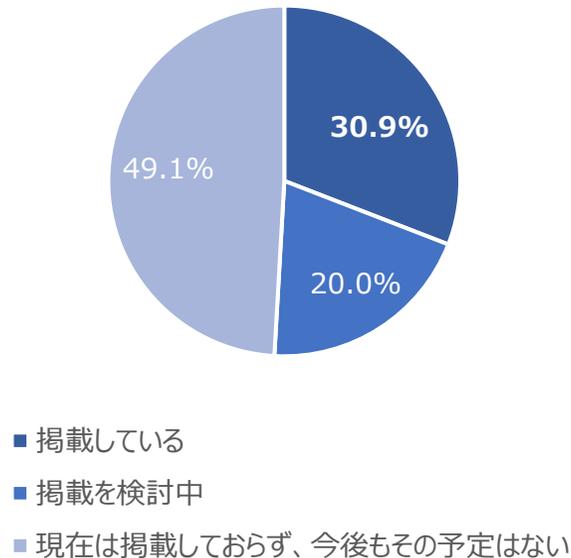
3. アンケート結果 (9/12)

③ 患者さん向け資材のプラットフォーム※への掲載について

ミルシルサイトへくすりのしおり以外の患者さん向け資材*を掲載済の企業は30.9%

*主な掲載資材：患者さん向けRMP資材、非RMP資材(疾患啓発、患者ハンドブック等)

※プラットフォーム：情報を集めて保存する、情報を取り出して利用するための共通基盤



Q17. 現在のくすりのしおりミルシルサイト(くすりの適正使用協議会)を通じた情報提供についてお伺いします。

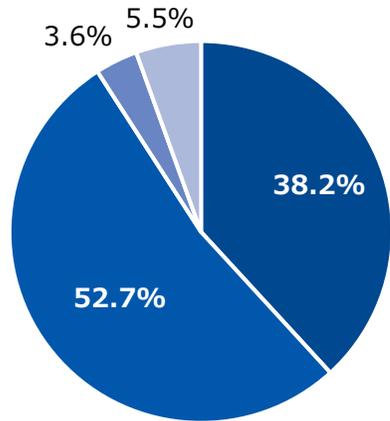
ミルシルサイトへくすりのしおり以外の患者さん向け資材を掲載していますか。(n=55)

Q18. どのような患者さん向け資材を掲載していますか。(複数選択可) (n=55)

3. アンケート結果 (10/12)

③ 患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

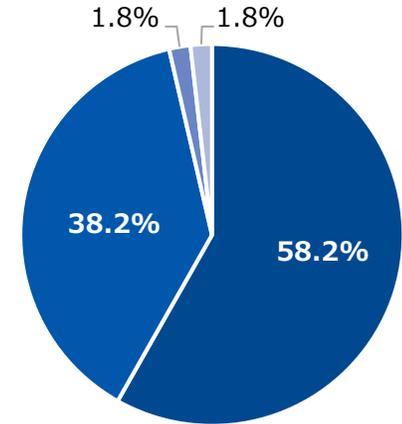
- プラットフォームを通じた情報提供の必要性は、90.9%の企業で認識
- 効率的なプラットフォームの仕組みを希望する企業は96.4%



プラットフォームの例
左側：ミルシルサイト（くすりの適正使用協議会）



右側：QLIFE（エムスリーグループ）



■ はい ■ どちらかと言えば、はい ■ どちらかと言えば、いいえ ■ いいえ

■ はい ■ どちらかと言えば、はい ■ どちらかと言えば、いいえ ■ いいえ

Q19. (PMDA WEBサイト、ミルシルサイトに限らず)今後のプラットフォームを通じた患者さん向けの情報提供についてお伺いします。
より多くの医療関係、患者さんに必要な情報を届けるためには、プラットフォームを通じた情報提供は必要であると思いますか。(n=55)

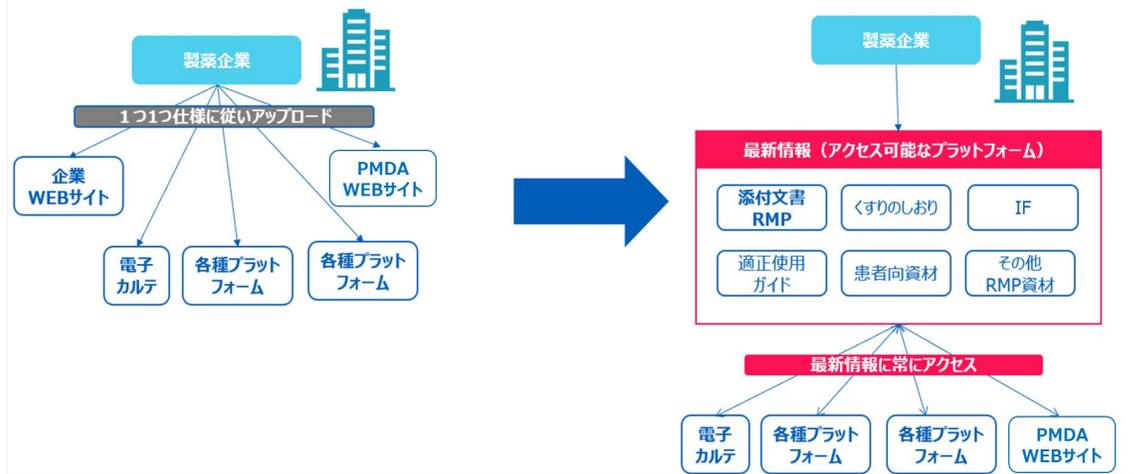
Q20. プラットフォームが複数出てきた場合、すべてに資材を掲載するのは手間が多くなることが想定されます。同じ情報が複数のプラットフォームに掲載される効率的な仕組みがあるとよいと思いますか。(n=55)

くすりのしおり ミルシルサイトとは
https://www.rad-ar.or.jp/siori/sioriclub/pdf/mirusiru_leaflet_220415.pdf
 QLIFE
<https://www.qlife.co.jp/>

3. アンケート結果 (11/12)

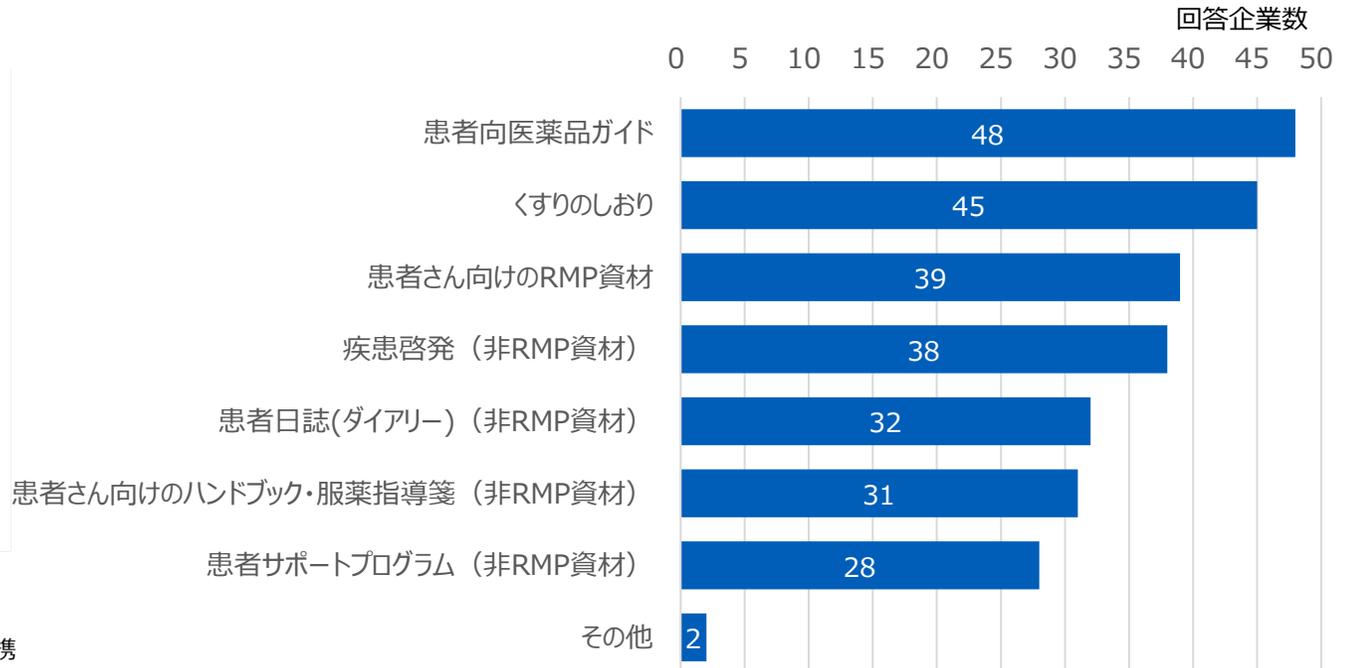
③ 患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

ハブとなるプラットフォームに最新情報を更新することで各プラットフォームに連携して掲載する仕組みができた場合、掲載したい資材は、「患者向医薬品ガイド」、「くすりのしおり」、「患者さん向けRMP資材」、「疾患啓発（非RMP資材）」などであった。



現行のイメージ：プラットフォームごとにその仕様に合わせて最新情報のアップロードが必要

将来のイメージ：ハブとなるプラットフォームにおいてのみ最新情報を更新することで各プラットフォームに連携

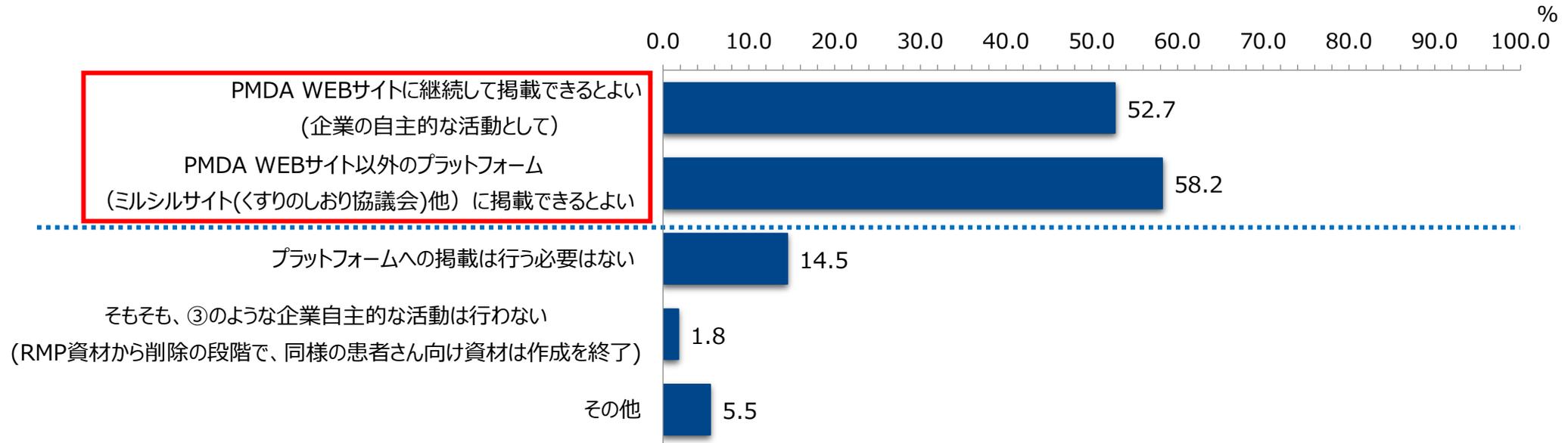


Q21. 同じ患者さん向け資材を複数のプラットフォームに掲載するための仕組みができた場合に、どのような患者さん向けのコンテンツをアクセス可能とするのがよいと考えますか。（複数選択可）(n=55)

3. アンケート結果 (12/12)

③ 患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

再審査終了後に、RMPが削除されたが、患者さん向けRMP資材を自主的に作成継続している場合で、何らかのプラットフォームWEBサイトへ掲載を希望する企業は大部分(78.2% (43/55社))



Q23.以下の再審査後の患者さん向け資材のケースを考えてください。

- ① 再審査終了後、RMPがPMDA WEBサイトから削除
- ② RMP資材としての患者さん向け資材による活動も終了し、PMDA WEBサイトから当該資材の公表が終了
- ③ ただし、企業の自主的な活動として、同様の内容でRMPマークを削除した患者さん向け資材は継続

上記③(企業が自主的に作成する患者さん向け資材)について、あてはまる選択肢にチェックを入れてください。(複数選択可)(n=55)

3. アンケート結果 -まとめ1-

デジタルによる患者さんへの情報提供について

- 患者さん向けの情報提供は、**ハイブリッド（印刷物＋WEB）が最も多く**（「印刷物のみ」あるいは「WEB掲載のみ」と比べて1.3～11.2倍多い）、**次いで印刷物のみ**であった。**WEB掲載のみとなるケースは限定的**（疾患啓発及び患者サポートプログラム）。
- 患者さん向けの情報提供では、**印刷物とデジタル版を使い分けていない企業が大部分（87.3%）**であった。
- 患者さん向け資材・情報は、**医療関係者を介した提供を希望する割合が65.5～89.1%と高**かった。
- 患者さん向けの動画コンテンツやアプリの作成が進む一方、**PV部門が関与した事例は21.0～23.0%**であった。

3. アンケート結果 -まとめ2-

患者さんや医療関係者からの意見について

- **医療関係者又は患者さんからの意見を取り入れて資材・情報を作成・改訂した経験のある企業は63.6%であった。**
- **患者さん向けデジタルコンテンツについて、患者さん又は医療関係者等からのフィードバックは取得していない企業が大部分(83.6%)であった。**
- **患者向けの情報提供(全般、PV部門が実施)について、患者さんからの意見収集・反映の必要性は90%超の企業で認識されている一方で、コストやリソースの点で実現困難と考える企業は40%超であった。**

3. アンケート結果 -まとめ3-

患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

- ミルシルサイト(くすりのしおり適正使用協議会)へ、くすりのしおり以外の患者さん向け資材を掲載済の企業は**30.9%**であった。
- プラットフォームを通じた情報提供の必要性は**90.9%**の企業で認識されており、**効率的なプラットフォームの仕組みを希望する企業は96.4%**であった。
- ハブとなるプラットフォームに最新情報を更新することで各プラットフォームに連携して掲載する仕組みができた場合にアクセス可能とすべき主な患者さん向けコンテンツは、**患者向医薬品ガイド、くすりのしおり、患者向けRMP資材、疾患啓発(非RMP資材)**であった。
- **患者さん向けRMP資材**については、**再審査終了後も企業自主的にプラットフォームWEBサイトへ掲載を希望する企業が大部分(78.2%)**であった。

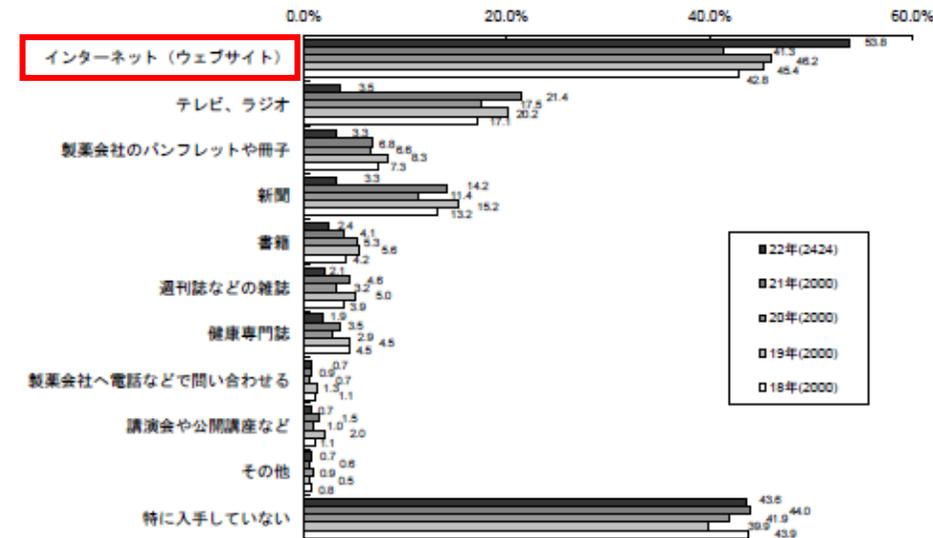
4. 考察 ① デジタルによる患者さんへの情報提供について

紙資材の必要性は完全になくならないが、患者さんの情報源のデジタル化は加速する一方である。デジタルを活用可能な資材や情報はなく見直すなど、デジタルも活用した提供体制の整備が望まれる。

患者さんの処方薬に関する情報源

- 「インターネット(ウェブサイト)」：53.8%
- 「製薬会社のパンフレットや冊子」などの紙媒体：3.3%(前年6.8%から更に減少)

医師・薬剤師以外からの処方薬の情報源²⁾

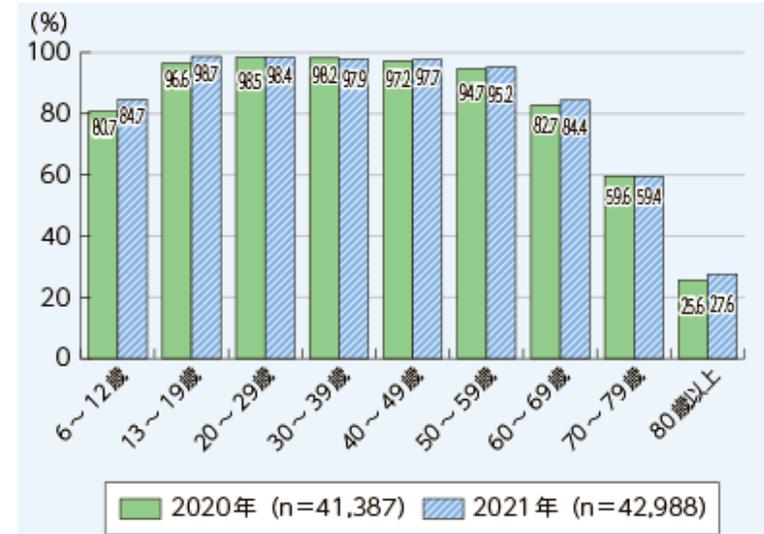


注) %値は回答者ベースで算出

インターネット利用率

- 各年齢層とも増加の傾向にある
- 高齢者でも60歳代は84.4%、70歳代は59.4%

年齢層別インターネット利用率³⁾



2) 第16回くすりと製薬産業に関する生活者意識調査 調査結果報告書、製薬協 2022年11月
[「くすりと製薬産業に関する生活者意識調査」報告書 | 刊行物 | 日本製薬工業協会 \(jpma.or.jp\)](https://www.jpma.or.jp/)

3) 総務省 令和4年版情報通信白書
[総務省 | 令和4年版 情報通信白書 | PDF版 \(soumu.go.jp\)](https://www.soumu.go.jp/)

4. 考察

① デジタルによる患者さんへの情報提供について

- 調剤薬局から患者さんへの服薬指導にPUSH型コミュニケーションが可能なデジタルツールを活用する企業が増えている。
- RMP資材を含む適正使用推進目的の情報提供においてもデジタルツールの活用が可能ではないか？

デジタルツールによるPUSH型コミュニケーションを導入している企業事例⁴⁾

企業名	カケハシ	MediFrame	C.Medical	ファーマシスト	メドレー	メドピア	グッドサイクルシステム
サービス名	Pocket Musubi	MediFrame SMS	Connect Online	つながる薬局	Pharms	Kakari	Followcare
使用するデジタルツール	LINE	SMS	専用アプリ	LINE	専用アプリ/SMS	専用アプリ	LINE/SMS
URL	Pocket Musubi LINEで出来る患者フォロー (kakehashi.life)	SMS – MediFrame	オンライン服薬システム「Connect Online」 クラウド薬歴アプリ「ConnectReport(コネクトレポート)」株式会社C-medical	【薬局向け】つながる薬局 LINEひとつで薬局経営のお悩み解決 (psft.co.jp)	【公式】Pharms(ファームス) 患者とつながる かかりつけ薬局支援システム (pharms-cloud.com)	kakari いつもの薬局を、あなたの「かかりつけ薬局」に (medpeer.jp)	Followcare LINE連携で簡単！服薬フォローアップ 電子薬歴GooCoで薬局変革を (株)グッドサイクルシステム (goodcycle.net)

4) オンライン服薬指導サービス比較ガイド (online-fukuyakushido.com)

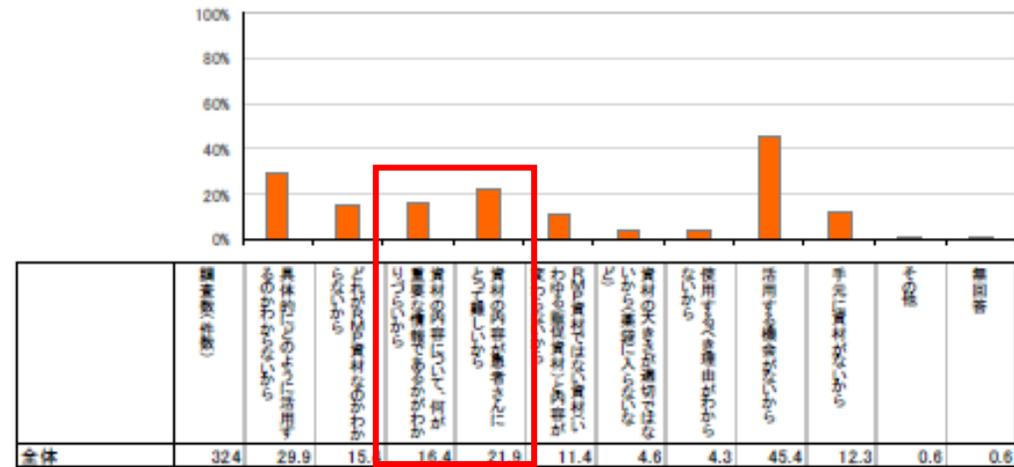
4. 考察 ② 患者さんや医療関係者からの意見について

- RMP資材の活用度向上のためにも、患者さんにとってわかりやすい資材内容を把握する目的で、患者さんからのフィードバックを取得することが好ましい。
- 業界として、患者さんからのフィードバックの取得方法及び結果の事例蓄積や共有の仕組み作りが求められる。
(例)デジタルによるコンテンツ配信後、患者さんからのフィードバックを取得

病院・薬局の薬剤師がRMP資材を活用したことがない理由

- 「資材の内容が患者さんにとって難しいから」：14.4~15.8%
- 「資材の内容について何が重要な情報であるかがわかりづらいから」：15.8~21.9%
→患者さんにとってわかりやすい資材内容及び情報提供のあり方を把握する必要がある。

薬剤師が「RMP資材」を活用したことがない理由 (左：病院、右：調剤薬局)⁵⁾



5) 令和4年度 病院、薬局における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況に関する調査
病院：[000251428.pdf \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp/000251428.pdf)、調剤薬局：[000251431.pdf \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp/000251431.pdf)

4. 考察

③ 患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

- 患者さん向けの情報を掲載するプラットフォームはPMDA、くすりのしおり適正使用協議会等複数存在する。
- 一方で、製薬企業が患者さん向け資材を全て掲載したいと考えるプラットフォームは現状ない。
- プラットフォームによる情報提供が望まれており、今回明らかにはなっていないが既存のプラットフォームに全ての患者さん向け資材を掲載しない理由も踏まえた最適なプラットフォームの整理が求められる。

患者さん向け情報を掲載する主なプラットフォーム

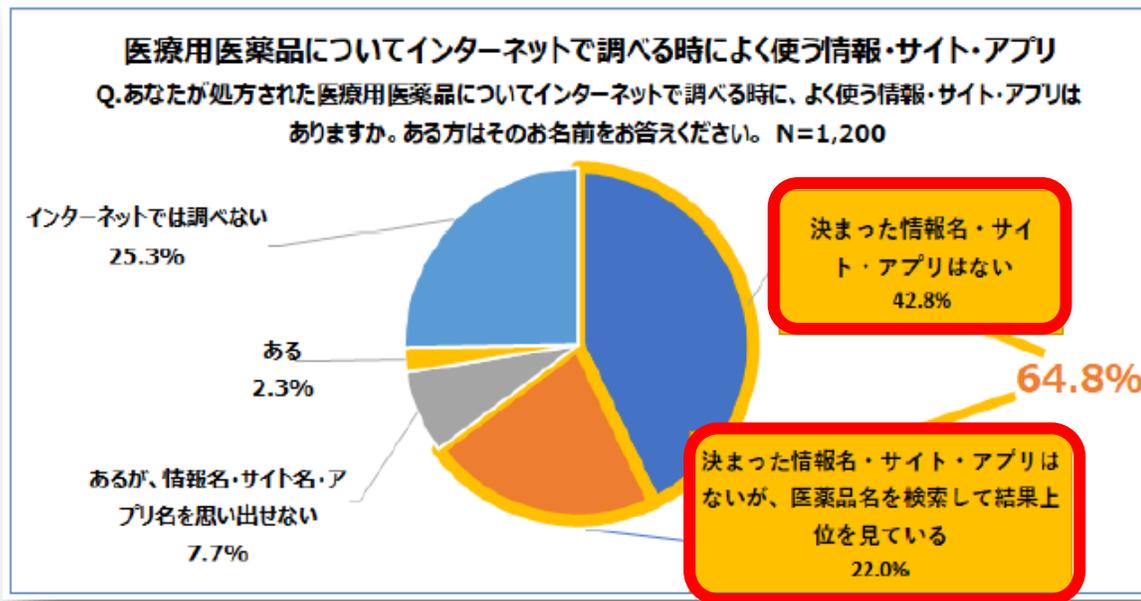
プラットフォーム	掲載されている患者さん向け資材/情報
医薬品医療機器総合機構 (PMDA) ⁶⁾	『患者向医薬品ガイド』 『くすりのしおり』(医療用医薬品の検索結果ページでのみ表示される) 重篤副作用疾患別対応マニュアル(患者・一般の方向け)
くすりのしおり適正使用協議会 ⁷⁾	『くすりのしおり』 企業自主作成の患者さん向け資材(企業の希望があれば掲載可)
Q Life ⁸⁾	くすりのしおりの情報 添付文書情報 [資材そのものは掲載されていない]
MEDLEY ⁹⁾	主に添付文書情報 [資材そのものは掲載されていない]
おくすり110番 ¹⁰⁾	主に添付文書情報 [資材そのものは掲載されていない]

6) 一般の方におすすめのコンテンツ | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (pmda.go.jp)/医療用医薬品 添付文書等情報検索 | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (pmda.go.jp)/重篤副作用疾患別対応マニュアル(患者・一般の方向け) | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (pmda.go.jp) 7) くすりのしおり：患者向け情報 (rad-ar.or.jp) 8) お薬検索【QLifeお薬検索】 9) 処方薬を調べる | MEDLEY(メドレー) 10) おくすり110番・病院の薬がよくわかる (jah.ne.jp)

4. 考察 ③ 患者さん向け資材のプラットフォームへの掲載について

- 患者さんはインターネット検索時、「決まった情報やサイトはない」「検索表示上位をみる」傾向があり¹⁾、正しい情報にたどり着けるよう、**正確な情報を集めたプラットフォーム及び患者さんへの認知度向上**が望まれる。
- プラットフォームへの掲載資材及びデジタル媒体に応じた情報掲載の構造化¹¹⁾**についても整理が必要である。

スマートフォンでも見やすい表示や情報の構造化 (PDFを避ける等) も検討することが望ましい。



「くすりのしおり」 "Kusuri-no-Shiori"

- 患者さんへの服薬説明指導書として開発
- 医療用医薬品添付文書をもとに、患者・家族にも理解しやすい表現でA4一枚程度にまとめたもの
- 製薬企業約180社が作成。薬価収載品目のおよそ75%程度を網羅。外来処方薬はほぼ網羅。
- 英語版も作成。現在カバー率68.8%。
- 月に数百万アクセス。75%が患者・家族。
- 現在は、8割がスマホからのアクセス。**



58

DIA

1) 医療用医薬品の調べ方調査、くすりの適正使用協議会 2021年5月20日
[医療用医薬品の調べ方調査\(くすりの適正使用協議会\)](#)

11) 医薬品安全対策と患者参画、くすりの適正使用協議会 DIA日本年回2022
[2022dia-kaicho.pdf \(rad-ar.or.jp\)](#)

5. 参考資料

1. 医療用医薬品の調べ方調査、くすりの適正使用協議会 2021年5月20日
[医療用医薬品の調べ方調査\(くすりの適正使用協議会\)](#)
2. 第16回 くすりと製薬産業に関する生活者意識調査 調査結果報告書、製薬協 2022年11月
[「くすりと製薬産業に関する生活者意識調査」報告書 | 刊行物 | 日本製薬工業協会 \(jpma.or.jp\)](#)
3. 総務省 令和4年版情報通信白書
[総務省 | 令和4年版 情報通信白書 | PDF版 \(soumu.go.jp\)](#)
4. オンライン服薬指導サービス比較ガイド
[\(online-fukuyakushido.com\)](#)
5. 令和4年度 病院、薬局における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況に関する調査
病院調査結果：[000251428.pdf \(pmda.go.jp\)](#)、薬局調査結果：[000251431.pdf \(pmda.go.jp\)](#)
6. 医薬品医療機器総合機構
[一般の方におすすめのコンテンツ | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 \(pmda.go.jp\)](#)
[重篤副作用疾患別対応マニュアル\(患者・一般の方向け\) | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 \(pmda.go.jp\)](#)
7. くすりのしおり適正使用協議会
[くすりのしおり：患者向け情報 \(rad-ar.or.jp\)](#)
8. Q Life
[お薬検索【QLifeお薬検索】](#)
9. MEDLEY
[処方薬を調べる | MEDLEY\(メドレー\)](#)
10. おくすり110番
[おくすり110番・・・病院の薬がよくわかる \(jah.ne.jp\)](#)
11. 医薬品安全対策と患者参画、くすりの適正使用協議会 DIA日本年回2022
[2022dia-kaicho.pdf \(rad-ar.or.jp\)](#)

作成担当／編集

リーダー兼担当副部長 拡大幹事

竹本 信也	(中外製薬株式会社)
北川 南都子	(日本イーライリリー株式会社)
篠田 好果	(バルティス ファーマ株式会社)

野口 正浩	(アステラス製薬株式会社)	原田 郁子	(住友ファーマ株式会社)
奥平 可奈子	(エーザイ株式会社)	中西 晋平	(中外製薬株式会社)
富島 さやか	(大塚製薬株式会社)	田中 佐千代	(日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社)
吉田 彩夏	(グラクソ・スミスクライン株式会社)	隅谷 真依	(ファイザー株式会社)

令和5年9月発行

編集

日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会 TF1
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-3-11
(日本橋ライフサイエンスビルディング)
TEL：03-3241-0326 FAX：03-3242-1767